



資産運用こぼれ話 どうしても知っておきたい五つのこと

寄稿：岡本 和久

1. イマジン

イマジン・・・元ビートルズのジョン・レノンの作詞・作曲で有名な曲です。その二番を替え歌にしました。

＼想像してごらん 国なんて無いんだと
そんなに難しくないだろう？
公的年金も国民健保も無く
そして税金も無い
さあ想像してごらん みんなが
ただ自立して生きているって・・・



これは少し誇張されすぎています。でも我々の生活をみんなお国や企業が面倒みてくれる時代はとっくの昔に過ぎています。今や将来の自分は今の自分が支えなければならない時代です。

もし、自分以外の誰も老後の面倒を見てくれないとしたらどうしますか。今の給料の一部を将来のためにとっておきますよね。そうです、今月の給料は今の生活費と退職後の生活費の両方の分なのです。

2. 積立投資は貯金の延長

今月の給料は今の生活費と退職後の生活費の両方の分なのです。そんなこと言われても今の生活だけで一杯なのにとってもじゃないけれど投資に回すお金なんてないと思うかもしれませんね。

例えば今と同じ生活水準を退職後もしたいのであれば、月給の半分は将来のためにとっておかなければなりません。相当の高給取りでなければそれは無理です。

だからお金を増やすことが必要なのです。それが投資です。とっておくだけでは将来のお金は足りません。経済活動に投じ、社会に役立てることでお金は増えるのです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

みなさん、少しずつは貯金をしているでしょう。その金額が緊急時に必要とされるぐらいまで貯まったら貯金を止めて投資信託の積立投資に切り替えればいいのです。金額は5,000円ぐらいからでもできます。投資は貯蓄の延長と考えればいいのです。

3. 72の法則

72の法則をご存知でしょうか。これは利率×年数=72となる組み合わせで資産が倍になるというものです。例えば利回り2パーセントだったら36年でお金が倍になります。4パーセントなら18年、6パーセントなら12年という具合です。

さて、今月の給料は今と将来の生活費の両方の分であるというお話をしました。今、30歳の方が65歳まで働いたとしましょう。36年間です。仮に平均の給料が100でそのうち70で今の生活をし、30を将来のために投資をしたとします。2パーセントという低利でも30歳の時に投資したお金は66歳の時には倍の60になります。31歳の時のお金は67歳で、32歳のお金は68歳で倍になります。これに若干の年金と少しでもお小遣い程度の収入があれば、ほぼ就労中と変わらない生活ができることになります。ここに投資でお金を増やすことがなぜ必要かという理由があります。

4. 投資信託は怖い

投資信託は投信とかファンドなどと呼ばれます。一般にあまり良い印象がないようです。投信で損をしたなどという声もよく聞きます。

投信はハサミのようなもの。生活になければならないものですが、使い方を間違えると怪我をすることもあります。投信は人生を通しての資産運用にはなくてはならないものです。投信で失敗するのは本当に自分が必要なものを買わずに、勧められたものばかり買うからです。

投信はたくさんの方が少額でもお金を出すことで大きな資金プールができ、それを専門家が運用してくれるスキームです。全体の金額が大きくなるのでたくさんの銘柄に分散投資ができます。また、運用をする投信会社、管理をする信託銀行、販売をする証券会社や銀行など役割がきちんと決まっています。非常に安全な商品なのです。正しい投信の使い方を知ることは資産運用に不可欠です。

5. かんたんすぎる資産運用

私は15年間にわたり年金運用に従事し、2005年に投資教育会社を起業しました。それ以来、どうしたら年金運用で行うような合理的な運用を誰でもできるシンプルなものにできるかを考え続けてきました。今、その結論に到達したと思っています。それは次のようなものです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

「全世界の株式インデックス・ファンドをできるだけ若いうちから積み立てる。そして、何があっても絶対に止めない」

簡単すぎるでしょう。株式には企業が生産活動に使っている資産の裏付けがあります。その価値は経済が拡大するとともに増加していきます。我々の生活は世界中の企業の生産活動で成り立っています。それをまとめて保有できるのがグローバル株式インデックス・ファンドです。これをまずは毎月1万円ぐらいから積立投資すればよいのです。あとはそれを絶対に止めずに続ける。ただそれだけです。